

令和7年度 第2回相生小学校運営協議会 会議録（要点記録）

（敬称省略）

- 1 開催日時 令和7年7月25日（金） 13時20分から15時30分
- 2 開催場所 相生小学校 多目的室
- 3 出席委員 大谷一雄、水谷加寿代、原隆之、森田賢児、鈴木麻衣子、
中川有香（学校支援コーディネーター）、高橋克好、鈴木徹也
- 4 欠席委員 廣野篤男
- 5 オブザーバー 佐々木千枝子・松本薫（学校支援コーディネーター）
- 6 学校関係 小林 延和（校長）、岡本綾子（教頭）、前田武稔（主幹教諭）、
伊藤龍彦（CSディレクター）
鈴木康之（1年主任）、高林佳世子（1年担任）
新井智香（2年主任）、村上友香（2年担任）、竹村治城（2年担任）
鈴木駿也（3年主任）、生崎貴代（3年担任）
田村暢之（4年主任）、木場世羅（4年担任）、野部桃子（4年担任）
中村真季子（5年主任）、三谷正純（5年担任）、中村洸太（5年担任）
宮本朋典（6年主任）、鳥居亜弥（6年担任）、吉田繁希（6年担任）
高山出美（発達学級主任）、森拓真（発達学級担任）
尾嶋渉（生徒指導主任）、石岡公香（養護教諭）

- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 伊藤 龍彦
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について意見を求めたところ、中川委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）前期学校評価結果と今後の取組
（熟議）課題を踏まえた改善策の検討
- （2）多様性を認め合える安心感のある学級・学年・学校づくりに必要な支援について
（熟議）学校・家庭・地域でできること

11 会議記録

司会の前田主幹教諭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）前期学校評価結果と今後の取組

（熟議）課題を踏まえた改善策の検討

議長の指示により、前田主幹教諭から、別紙資料に基づき、学校評価アンケート概要及び熟議の方法について説明があり、委員と相生小職員とで、課題に対するグループミーティングを実施し情報交換をした。各グループからは、以下の発言があった。

- ① 主体的な学習をより進めていくために、家庭学習をどのように進めていくか。
 - ・ 子供によってはどのような自主勉強をすればよいか分からないことがある。自主勉

強を課題にするなら担任の手を入れる必要があると考える。それが、難しいなら、計算などの基本的なことをやらせるべき。基本的なことを身につけないと、中学・高校へ行ったときに困る。

- ・ 自分のできる範囲で一つのことをしっかりと続けることが大切。学校と家庭の連携が重要。宿題の量を増やすだけでは、解決しない可能性がある。自主勉強については、やり方を繰り返して説明する必要がある。(Aグループ)
 - ・ 授業について、どのような授業を目指しているのか？昔は、暗記学習も多かったが、今は、いろいろな友達の考えを聞いて知識を習得すると聞き、感心している。家庭学習は、取り組む子は黙っていても取り組む。家でも見届けが必要だと思う。最低限の自主学習のノルマがあってもいい。自主学習のやり方を学校できちんと押さえていかなければならない。(Bグループ)
 - ・ 学ぶ意義を伝えていくことが大切だと思う。図書の活用(例、偉人の本)、をし、先人の生き方から学ぶことで、学ぶことの大切さに気づき、意識が高まる。地域の人からも学ぶ。(Cグループ)
 - ・ 家では宿題はしているが、遊びに行きたい気持ちが強い。家庭ではどのくらいやらせればいいのか、発信してもらえると助かる。自主勉強を3年生くらいから始めているが、いつやるかは、自分でスケジュール管理が必要。自分で考えてやることは、すごい。考えてもらうことはいいことだが、差がある気がする。(Dグループ)
 - ・ 家庭学習は、学年ごとに子供たちの様子を見ながら決めている。家庭では、めあてを決めて宿題に取り組んで欲しい。(Fグループ)
- ② 授業づくりの時間を生み出すために、何ができるか。
- ・ 新しい学習の形に、教員も戸惑いもある。考えるための時間をどうしたら確保できるだろうか。(Bグループ)
 - ・ ICTを活用した授業については、子供たちが必要に応じて必要な情報を選びとる。児童たちに任せる。学年に応じて、その度合いが異なるため、保護者の理解が必要。(Fグループ)
- ③ 挨拶への意識をさらに高め、保護者や地域にも伝わるようにしていくために、何ができるか？
- ・ 朝、結構あいさつの声が聞こえる。恥ずかしがる子もいるが、返してくれる子も多い。時代の変化もあるかもしれないが、普段、よく会う人にはして欲しい。どうしてあいさつをするのか、挨拶をするとどんないいことがあるのか、を知ることから始める必要がある。(Bグループ)
 - ・ 地域の実態として、立ち止まって挨拶をしてくれる子もいる。しかし、物足りなさも感じている。まずは、旗振りの保護者側の意識改革も必要ではないか。この地域では、保護者が、お互いに子供たちを見守っている風潮がある。教室に入るときの挨拶は、低学年を中心にできている子が多い。挨拶の大切さを価値づけていくことが大切だと思う。(Cグループ)
 - ・ 顔見知りになると挨拶しやすい。知っている人にはできる。旗振りや関係してくれている人、知っている人に挨拶できれば、それでいいのではないか。(Eグループ)
 - ・ 学校の挨拶指導を引き続き大切にして欲しい。(Fグループ)

- ④ 休み時間に子供たちが安心して遊ぶことができる環境をつくるためにできることは何か。
- ・ Hello スポーツを地域と協力しながら継続していくことが大切。体育を通して、自分で生きる力を育てていくことも大切。(Cグループ)
 - ・ 休み時間の使い方は、子供たちに任せている。子供たちを見る教員が足りないため、見守るボランティアも必要。(Fグループ)
- ⑤ 子供たちが一層、自分の考えをもって挑戦したり、夢や希望をもって自分らしく学んでいったりするために、何ができるか。
- ・ キャリア教育とは何か、理解が難しい。学校でどんなことを目指してキャリア教育を行っているのか、知りたい。発信してほしい。(Fグループ)
- ⑥ 登下校の見守りを含め、よりよい連携、よりよい活動をしていくために何ができるか？
- ・ 得意なところを認めて、そのプラスを促していくとよいのでは。(Dグループ)
 - ・ 前と比べると、いろいろ配信されていて、学校と保護者がつながっている気がする。(Dグループ)
 - ・ 旗振りボランティアへの批判的な意見もあるが、見守りを手厚くするには、もっと人数を増やす必要がある。(Eグループ)
- ⑦ 教職員が、子供と向き合う時間を確保するために何ができるか。
- ・ 教職員の昼休みの確保のためには、CSの協力(昼休み見守り隊)があるとよい。(Bグループ)
 - ・ 子供たちともっと向きあう時間を取ってあげたい。しかし、地域の方々が、このように動いてくださっていることで、時間を捻出し、子供と向き合う時間ができている。アンケートの結果に一喜一憂するのではなく、先生方も毅然とした対応をしていただくことが大切。(Cグループ)
- ⑧ その他
- ・ 参観会をみると、授業の内容がよくわかる。CSボランティアがどこまで関わってよいのか、教えて欲しい。(Bグループ)
 - ・ 子供だけでなく、大人も変わっていかないと、みんなで変わっていくことがよい。
 - ・ 子供たちとの触れ合いでも、うまく乗せていくことが、大切。やり方次第で、変わってくることがある。心の扉が開いたと感じる経験があった。発達支援のこともすごく聞いてくれている。学校に相談するといい。(Dグループ)
 - ・ 見過ごしてきたこと(いじめなど)を、先生たちが拾ってくださっている気がする。タブレットは簡単だが、苦勞したことは、身についている。興味のあることに熱中していることは、いいことなのではないか。言い方を考えて伝えることは大切。大人になっても素直に謝ることは、大切。(Dグループ)
 - ・ 子供たちの外遊びの機会減が気になる。家庭で教育してほしいことなど、学校に任せる範囲が大きくなっている。地域の方たちは、学校に関わりたいたいという思いを持っている。学校のやり方や思いもあるため、学校が地域に手伝ってほしいことや、こういうことをして欲しいという思いを伝えてくれたらうれしい。ボランティアさんに、どこまでどのように関わってもらいたいかを明確に共有できると手伝いやすい。学校の方

針と家庭での理解のずれ、ギャップがある。学校から、必要に応じて示してくれると、風通しの良い関係となる。(Eグループ)

(2) 多様性を認め合える安心感のある学級・学年・学校づくりに必要な支援について

(熟議) 学校・家庭・地域でできること

相生小職員退出後、熟議を再開した。委員より、以下の発言があった。

- ・ つらく悲しいときは、ぐっと抱きしめて欲しいという要望があったが、今はスキンシップの行為は避けた方が良くとされている。教育の現場でできることをもう少し開示してほしい。例えば、子供に指導するときは廊下でするなど、指導の方法について、あまりに知らないことが多い。学校現場について親が知る必要があると思う。(麻衣子委員)
 - ・ 学校としては、保護者に丁寧に説明していく。その中で、ご理解をいただくしかない。(校長)
 - ・ 家庭学習は、たくさん出す必要はない。経験上漢字なら、マスを大きくして、丁寧に書く必要がある。量ではなく丁寧さが大切。先日、中学校に行ったが、勉強ができない子は、小学校の内容が分かっていない。だから、学校に行っても面白くない。不登校につながる。(会長)
 - ・ 若い先生からは「子供たちと真剣に向き合っていることが、どの程度、家庭に伝わっているか。」「家庭はどのように子供と向き合っているか。」という話があった。保護者の声に委縮することなく、毅然とした対応を期待する。登校時、旗振りのボランティアの方々も、必ず子供たちに挨拶をしてもよいのではないかと。(森田委員)
 - ・ 学力がないまま大きくなるのは、不登校につながる。森田委員の「見せよう大人の背中」という言葉が心に残った。(水谷委員)
 - ・ 理不尽な親、言うことを聞かない子供も多くいると思うが、先生方が一生懸命やってくれていることに感謝しています。(高橋委員)
 - ・ 挨拶をすると、子供たちの反応が全然違う。自分に課しているテーマは「多様性」。同じことを同じように言っても、感じ方が子によって違う。多様性について、よく分からない、どこに線があるのか。名前が分からず、容姿でその人を呼ぶこともあったが、名前を覚えることにより、コミュニケーションが取れるようになってきた。(原委員)
 - ・ 善悪の線引きが日々変わっている。ハラスメントの前に人間関係をつくるのが大切。関係があれば、ハラスメントの線引きが変わってくる。(校長)
 - ・ ハラスメントを主張する風潮によって、現場の先生たちを委縮しているのでは？(森田委員)
 - ・ 子供たちの方が情報量が多いのかもしれない。心配する保護者が増えているかもしれないが、その点では、相生小は、保護者に助けられている。(校長)
- 熟議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他の報告事項等

司会から令和7年度第2回学校運営協議会は、2025年11月12日(水)13:45～16:00 多目的室で開催する旨の報告があった。